

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立白光中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 836-0005
福岡県大牟田市椿黒町 32 番地

E-mail hakkou-js@st.city.omuta.fukuoka.jp
Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/hakkou-jh/

幼児児童生徒数 男子 131 名 女子 135 名 合計 266 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、学校教育目標「徳・知・体が調和的に発達し、人間性豊かな生徒を育成する」を達成するために、ESDを校内研究の主題研究に位置づけ、ESDの視点に立った学習指導を通して人間性豊かな生徒（自律心、協調性、感動する心を高める生徒）の育成を目標に実践に取り組んだ。

具体的には、ESDで身につけさせたい能力・態度（④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度）を総合的な学習の時間と教科・道徳・特別活動でつなぐ取組を通して育成した。

①白光タイム（総合的な学習の時間）でつなぐ取組

第1学年では、SDGs「3. すべての人に健康と福祉を」「16. 平和と公正をすべての人に」の公平性と連携性を課題の視点として、福祉学習（絵本教室・寸劇づくり、介護体験学習）に取り組んだ。第2学年では、「8. 働きがいも経済成長も」「11. 住み続けられるまちづくりを」の責任性と有限性を中心課題の視点として、職場体験学習と世界遺産学習に取り組んだ。第3学年では、「8. 働きがいも経済成長も」「3. すべての人に健康と福祉を」の責任性、公平性、連携性を課題の視点として、上級学校訪問と保育体験学習に取り組んだ。すべての学年で、ESDで身につけさせたい能力・態度の④⑤⑥⑦を育てた。

②教科でつなぐ取組

学校行事や総合的な学習の時間の体験活動と教科でESDの視点に立った学習指導ができる単元や題材を検討し、ESDカレンダーを作成した。全職員でESDの視点に立った学習指導の授業実践を行い、技術では、「エネルギー変換の評価と活用」の単元で相互性と有限性を課題の視点としてESDで身につけさせたい能力・態度の③と⑥を育てた。国語では、「挨拶－原爆の写真によせて」の題材で連携性と責任性を課題の視点として③④⑤⑥の能力・態度を育てた。このように各教科で、ESDで身につけさせたい能力・態度を育てた。

③道徳でつなぐ取組

各教科と同様に、道徳でもESDの視点に立った学習指導を行った。総合的な学習の時間や学校行事を中心とした特別活動の体験活動と道徳的価値項目をつなげることで能力・態度を育てた。1年生の絵本教室と関連した道徳では、内容項目2－(2)人間愛、思いやりで⑤⑥の能力・態度を育てる授業を行った。体育会に関連した道徳では、内容項目2－(2)、関連項目2－(6)尊敬・感謝で⑤⑥の能力・態度を育てる授業を行った。

④特別活動でつなぐ取組

特別活動の学校行事では、体育会と音楽発表会の取組を通してESDで身につけさせたい能力・態度を育てた。それぞれの学校行事ストーリーを作成し、計画的に全職員で共通理解を図りながら④⑤⑥⑦の能力・態度を育てた。



① 白光タイム（寸劇づくり）の様子



② 教科（国語）校内研究授業の様子



③ 道徳における公開授業の様子



④ 特別活動（体育会）における体験活動の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休日の地域ボランティア活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・認知症ケア研究会「いつだって心は生きている-大切なものを見つけよう」
- ・世界遺産学習 中学校版教材集(大牟田市教育委員会 平成29年4月発行)
- ・「みんなで跳んだ-城北中学2年1組の記録」滝田よしひろ(著)・小学館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項1-2, 1-3に対応

教育課程に位置づけるために、「持続可能な開発のための教育（ESD）全体計画」を作成し、教育指導計画に掲載して全職員で共通理解を図っている。総合的な学習の時間の年間指導計画には、学年別にユネスコスクールとしての活動を計画し、実践している。また指導方法の工夫改善としては、年数回の研修会を実施し、ESDの視点に立った学習指導ができる単元や題材を全職員で検討し、各教科、道徳、学級活動の年間指導計画にESDで身につけさせたい能力・態度を明記して、計画的にESDの視点に立った学習指導の実践に取り組んできた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

校務分掌に各学年1名からなるESD担当と学校全体としてユネスコスクール担当を位置づけ、組織的な活動ができる体制を整えている。また、平成27年度から校内研究のテーマ研究でESDに取り組み、研究主題「持続可能な社会づくりをめざす人間性豊かな生徒の育成」を設定した。これにより学校全体でユネスコスクールとしての取り組みを計画的、かつ継続的に実践することができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

活動の質の向上を図るために、学校評価にESDで取り組んだ体験活動の充実を評価項目として設定し、学期に1回評価を実施している。またその結果は、学校関係者評価委員会で報告し、活動の評価を行っている。成果としては、学校関係者評価委員の方から「体験活動への自主的参加や企画運営等を経験する中で人間性が高まっている」「様々な体験学習を通して生徒の心の成長が促されている」と高評価をいただいた。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

指定研究発表会を11月に実施し、平成27~29年度の活動成果を発信した。これにより、全教科全領域でESDの視点に立った指導の在り方を広められた。また、人間性豊かな生徒に必要な能力・態度(④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度)を育てることができた。また、大牟田市教育委員会主催のユネスコスクール子どもサミットや認知症SOSネットワーク模擬訓練など多くのボランティア活動で地域に発信し、生徒の自律心を育てることもできた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

平成27年度から3年間取り組んだESDの研究を通して、福岡教育大学教授の石丸哲史先生と連携を図りながらユネスコスクールとしての活動に取り組んだ。また総合的な学習の時間の体験活動では、認知症ケア研究会やNPO法人しらかわの会、大牟田市社会福祉協議会、大牟田市役所企画総務部世界遺産・文化財室など地域の様々な団体と連携して学習に取り組んだ。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

本校のESD研究発表会后、同じ内容の研究主題で国立教育政策研究所の指定研究を受けた大仙市立大曲南中学校の公開授業研究会に参加した。研究紀要等の研究資料を交換し、情報交流を行った。また、ユネスコスクールに加盟を検討している佐伯市立宇目緑豊中学校とも交流を行い、大牟田市で開催したユネスコスクール全国大会に参加して頂き、情報交換を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校には、生徒が自主的に運営している白光クッキー社がある。地域のイベントや校内行事、授業参観等で生徒がデザインしたクッキーを販売し、その収益金を東日本大震災や熊本地震などの被災地に送っている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

大牟田市は実態に応じて10の目標（目標3, 4, 7, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17）を重点的に取り組む目標に定めた。本校でも生徒や地域の実態、これまでの白光タイムを中心とした体験学習の「つながり」を踏まえながら、白光中学校版SDGsを「3. すべての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に設定し重点的に取り組む。

<具体的な活動計画>

第1学年：絵本教室・寸劇づくりの取組（5月）、介護体験学習（10～11月）
高齢者・車いす体験、持続可能な社会づくりについて（1～2月）

第2学年：職場体験学習（5～6月）、世界遺産学習（10～2月）

第3学年：上級学校訪問（5～6月）、保育体験学習（10～11月）

キャリア学習「進路学習」（12～2月）

全生徒対象の自主参加活動：認知症SOSネットワーク模擬訓練

白光クッキー社&吹奏楽部のボランティア活動：

それいゆ祭（5月）、明治校区ふれあい祭（6月）、白川納涼祭（9月）